

1 調査の概要

1 調査の目的

我が国の人口動態5事象（出生、死亡、婚姻、離婚及び死産）を把握し、各種施策の基礎資料とする。

2 調査の対象

「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届けられた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象としている。

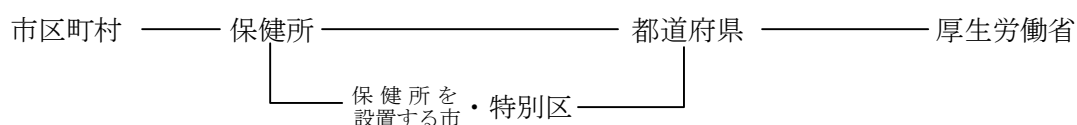
ただし、本報告書では日本における外国人及び外国における日本人の事象は除いている。（日本において発生した日本人の事象を客体とした。）

3 調査の期間

平成24年1月1日～12月31日

4 調査の方法

市区町長が、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の届書に基づいて人口動態調査票を作成し、これを保健所長、都道府県知事を経由して厚生労働大臣に送付する。



5 関係法規

人口動態調査令（昭和21年勅令第447号）

人口動態調査令施行細則（昭和23年厚生省令第6号）

戸籍法（昭和22年法律第224号）

戸籍法施行規則（昭和22年司法省令第94号）

出生証明書の様式等を定める省令（昭和27年法務・厚生省令第1号）

国籍法（昭和25年法律第147号）

死産の届出に関する規程（昭和21年厚生省令第42号）

死産届書、死産証書及び死胎検案書に関する省令（昭和27年厚生省令第12号）

6 集計

都道府県・市区町別の集計は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

調査の集計は厚生労働省大臣官房統計情報部が実施。ただし、県及び市区町別の集計の一部は、厚生労働省人口動態調査の調査票情報を利用し県で実施。

2 用語の解説

自然増加	出生数から死亡数を減じたもの
乳児死亡	生後1年未満の死亡
新生児死亡	生後4週未満の死亡
早期新生児死亡	生後1週未満の死亡
妊娠期間	早期：妊娠満37週未満（259日未満） 正期：妊娠満37週から満42週未満（259日から293日） 過期：妊娠満42週以上（294日以上） ※出生、死産及び周産期死亡の妊娠期間は満週数による。 （昭和53年までは、数えによる妊娠月数）
死産	妊娠満12週（妊娠第4月）以後の死児の出産 ※死児…出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないもの
自然死産と人工死産	人工死産…胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的処置（胎児又は附属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用）を加えたことにより死産に至った場合 自然死産…人工死産以外のすべての死産 ※人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。 (1) 胎児を出生させることを目的とした場合 (2) 母体内の胎児が生死不明又は死亡している場合
周産期死亡	妊娠満22週（154日）以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

3 比 率 の 解 説

$$\text{出生率} = \frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{死亡率} = \frac{\text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{自然増加率} = \frac{\text{自然増加数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数（出生数 + 死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{自然死産率} = \frac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数（出生数 + 死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{人工死産率} = \frac{\text{年間人工死産数}}{\text{年間出産数（出生数 + 死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数（出生数 + 妊娠満22週以後の死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{妊娠満22週以後の死産率} = \frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数（総数・自然・人工）}}{\text{年間出産数（出生数 + 妊娠満22週以後の死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{婚姻率} = \frac{\text{年間婚姻届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{離婚率} = \frac{\text{年間離婚届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \quad \text{15歳から49歳までの合計}$$

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。（実際に一人の女性が一生の間に生む子どもの数はコーホート合計特殊出生率である。）

Ⅱ 調査結果の概要

静岡県における結果の概要

1 出生数は減少

出生数は30,810人で、前年の31,172人より362人減少し、出生率（人口千対）は8.4で、前年と同率だった。

また、合計特殊出生率は1.52で前年の1.49を上回った。

2 死亡数は増加

死亡数は38,194人で、前年の37,303人より891人増加し、死亡率（人口千対）は10.4で、前年の10.1を上回った。

死因順位は、第1位が悪性新生物（死亡数10,269人、死亡率（人口10万対）278.8）、第2位が心疾患（5,697人、154.7）、第3位が脳血管疾患（4,258人、115.6）となっている。

3 自然増加数は減少

出生と死亡の差である自然増加数は Δ 7,384人で、前年より1,253人減少し、自然増加率（人口千対）は Δ 2.0で、前年の Δ 1.7を下回った。

4 乳児死亡数、新生児死亡数は減少

乳児死亡数は58人で、前年より12人減少し、乳児死亡率（出生千対）は1.9で、前年の2.2を下回った。

また、新生児死亡数は28人で、前年より2人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.9で、前年の1.0を下回った。

5 死産数は減少

死産数は647胎で、前年より72胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は20.6で、前年の22.5を下回った。

6 婚姻件数は増加

婚姻件数は19,323組で、前年より230組増加し、婚姻率（人口千対）は5.2で、前年の5.2と同率だった。

7 離婚件数は増加

離婚件数は6,878組で、前年より74組増加し、離婚率（人口千対）は1.87で、前年の1.84を上回った。

表1 人口動態総覧

	静岡県							全国			
	実数		率		全国順位		平均発生間隔	実数		率	
	24年 (確定数)	23年 (確定数)	24年 (確定値)	23年 (確定値)	24年	23年	24年	24年 (確定数)	23年 (確定数)	24年 (確定値)	23年 (確定値)
出生	30,810	31,172	8.4	8.4	15	17	17分06秒	1,037,231	1,050,806	8.2	8.3
男	15,865	15,932	8.7	8.8	…	…	33分13秒	531,781	538,271	8.7	8.8
女	14,945	15,240	8.0	8.1	…	…	35分16秒	505,450	512,535	7.8	7.9
死亡	38,194	37,303	10.4	10.1	33	35	13分48秒	1,256,359	1,253,066	10.0	9.9
男	19,940	19,581	11.0	10.8	…	…	26分26秒	655,526	656,540	10.7	10.7
女	18,254	17,722	9.8	9.5	…	…	28分52秒	600,833	596,526	9.3	9.2
乳児死亡	58	70	1.9	2.2	40	26	151時間26分54秒	2,299	2,463	2.2	2.3
新生児死亡	28	30	0.9	1.0	36	30	313時間42分51秒	1,065	1,147	1.0	1.1
自然増加	△ 7,384	△ 6,131	△ 2.0	△ 1.7	13	13	………	△ 219,128	△ 202,260	△ 1.7	△ 1.6
死産	647	719	20.6	22.5	44	34	13時間34分35秒	24,800	25,751	23.4	23.9
自然死産	316	373	10.0	11.7	37	17	27時間47分51秒	11,448	11,940	10.8	11.1
人工死産	331	346	10.5	10.8	42	40	26時間32分16秒	13,352	13,811	12.6	12.8
周産期死亡	104	132	3.4	4.2	41	29	84時間27分42秒	4,133	4,315	4.0	4.1
妊娠満22週 以後の死産	86	109	2.8	3.5	…	…	102時間8分22秒	3,343	3,491	3.2	3.3
早期新生児 死亡	18	23	0.6	0.7	…	…	488時間0分00秒	790	824	0.8	0.8
婚姻	19,323	19,093	5.2	5.2	10	10	27分17秒	668,869	661,895	5.3	5.2
離婚	6,878	6,804	1.87	1.84	17	17	1時間16分38秒	235,406	235,719	1.87	1.87
合計特殊出生率			1.52	1.49	17	17				1.41	1.39

(注) 1 出生率・死亡率・自然増加率・婚姻率・離婚率は人口千対、乳児死亡率・新生児死亡率・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2 全国順位は、率の高い方から数えた順位である。

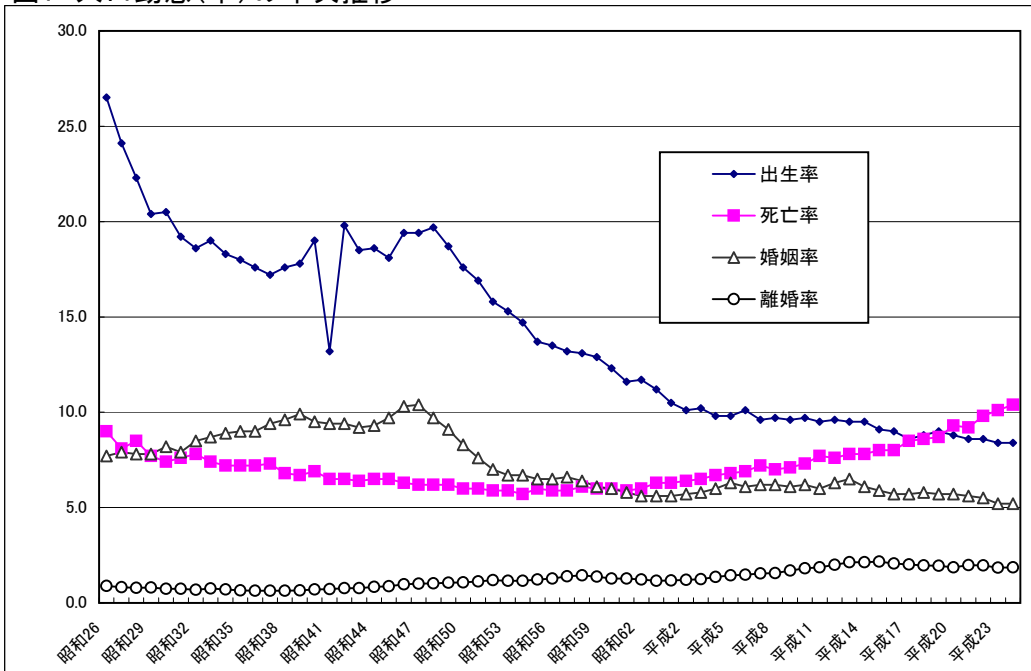
3 諸率の算出に用いた人口は、総務省統計局の平成24年10月1日現在推計人口である。

(静岡県… 3,683,000人、 全国… 125,957,000人)

表2 人口動態(実数・率)の年次推移

	出生		死亡		乳児死亡		新生児死亡		死産		婚姻		離婚	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
昭和40年	55,328	19.0	19,966	6.9	866	15.7	482	8.7	4,431	74.1	27,788	9.5	2,064	0.71
50	58,276	17.6	19,788	6.0	542	9.3	349	6.0	2,709	44.4	27,541	8.3	3,536	1.07
55	47,160	13.7	20,550	6.0	305	6.5	184	3.9	2,039	41.4	22,460	6.5	4,202	1.22
60	43,932	12.3	21,415	6.0	236	5.4	143	3.3	1,819	39.8	21,501	6.0	4,572	1.28
平成元年	38,075	10.5	22,769	6.3	144	3.8	73	1.9	1,503	38.0	20,435	5.6	4,302	1.18
2	37,045	10.1	23,543	6.4	157	4.2	86	2.3	1,464	38.0	20,700	5.7	4,432	1.21
3	37,385	10.2	23,850	6.5	175	4.7	103	2.8	1,334	34.5	21,356	5.8	4,571	1.25
4	35,973	9.8	24,619	6.7	164	4.6	80	2.2	1,321	35.4	22,000	6.0	5,017	1.36
5	36,098	9.8	25,089	6.8	153	4.2	73	2.0	1,191	31.9	23,144	6.3	5,292	1.44
6	37,462	10.1	25,503	6.9	151	4.0	86	2.3	1,196	30.9	22,724	6.1	5,426	1.47
7	35,345	9.6	26,666	7.2	164	4.6	75	2.1	1,086	29.8	22,991	6.2	5,723	1.55
8	36,081	9.7	26,089	7.0	118	3.3	60	1.7	1,074	28.9	23,117	6.2	5,795	1.56
9	35,606	9.6	26,343	7.1	116	3.3	65	1.8	1,026	28.0	22,513	6.1	6,298	1.70
10	35,921	9.7	27,178	7.3	107	3.0	57	1.6	1,017	27.5	23,134	6.2	6,780	1.82
11	35,395	9.5	28,753	7.7	111	3.1	62	1.8	1,080	29.6	22,429	6.0	6,976	1.87
12	35,794	9.6	28,323	7.6	96	2.7	52	1.5	1,088	29.5	23,550	6.3	7,380	1.99
13	35,193	9.5	28,914	7.8	86	2.4	42	1.2	1,044	28.8	24,019	6.5	7,967	2.14
14	35,212	9.5	28,894	7.8	94	2.7	57	1.6	1,067	29.4	22,635	6.1	7,985	2.14
15	34,061	9.1	29,813	8.0	109	3.2	68	2.0	1,038	29.6	21,817	5.9	8,087	2.17
16	33,628	9.0	29,809	8.0	83	2.5	46	1.4	960	27.8	21,304	5.7	7,688	2.06
17	31,908	8.6	31,747	8.5	99	3.1	56	1.8	816	24.9	21,056	5.7	7,474	2.01
18	32,905	8.8	32,001	8.6	87	2.6	43	1.3	840	24.9	21,663	5.8	7,281	1.96
19	33,274	9.0	32,507	8.7	81	2.4	48	1.4	750	22.0	21,150	5.7	7,208	1.94
20	32,701	8.8	34,511	9.3	80	2.4	46	1.4	789	23.6	21,193	5.7	6,959	1.87
21	31,901	8.6	34,209	9.2	65	2.0	30	0.9	731	22.4	20,716	5.6	7,352	1.98
22	31,896	8.6	36,420	9.8	68	2.1	34	1.1	716	22.0	20,323	5.5	7,241	1.96
23	31,172	8.4	37,303	10.1	70	2.2	30	1.0	719	22.5	19,093	5.2	6,804	1.84
24	30,810	8.4	38,194	10.4	58	1.9	28	0.9	647	20.6	19,323	5.2	6,878	1.87

図1 人口動態(率)の年次推移



1 出生

(1) 出生数・出生率

平成24年の出生数は30,810人で、前年の31,172人より362人減少した。

昭和46～49年の第2次ベビーブーム期には、毎年6万人を超える出生があったが、昭和50年以降はほぼ毎年減少を続け、昭和55年に5万人を、平成元年に4万人を、平成15年は3万5千人を下回った。

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、30～34歳が最も多く、次いで25～29歳、35～39歳の順となっている。34歳以下の各階級では前年より減少したが、35歳以上の出生数は前年より増加しており、35歳以上の母親からの出生数は、全体の24%になっている。

出生率（人口千対）は8.4で、前年の8.4と同率だった。

表3 母の年齢(5歳階級)別にみた出生数の年次推移

	出生数				対前年増減		割合	
	平成24年	23年	22年	14年	24年-23年	23年-22年	24年	14年
総数	30,810	31,172	31,896	35,212	△ 362	△ 724	100.0	100.0
～19歳	357	360	424	604	△ 3	△ 64	1.2	1.7
20～24	2,968	3,182	3,313	4,865	△ 214	△ 131	9.6	13.8
25～29	9,287	9,433	9,655	13,359	△ 146	△ 222	30.1	37.9
30～34	10,876	11,023	11,447	12,278	△ 147	△ 424	35.3	34.9
35～39	6,198	6,104	6,162	3,670	94	△ 58	20.1	10.4
40歳以上	1,124	1,070	895	436	54	175	3.6	1.2

(注) 総数には母の年齢不詳を含む。

(2) 合計特殊出生率

平成24年の合計特殊出生率は1.52で、前年の1.49から上昇した。

合計特殊出生率は、昭和55年に2.00、平成7年に1.50を下回り、低下傾向が続いていたが、平成15年以降は総じて上昇傾向となっている。

表4 合計特殊出生率の年次推移

	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	13年
静岡県	2.11	2.21	2.12	2.02	1.80	1.85	1.60	1.48	1.47	1.40
全国	2.00	2.14	2.13	1.91	1.75	1.76	1.54	1.42	1.36	1.33

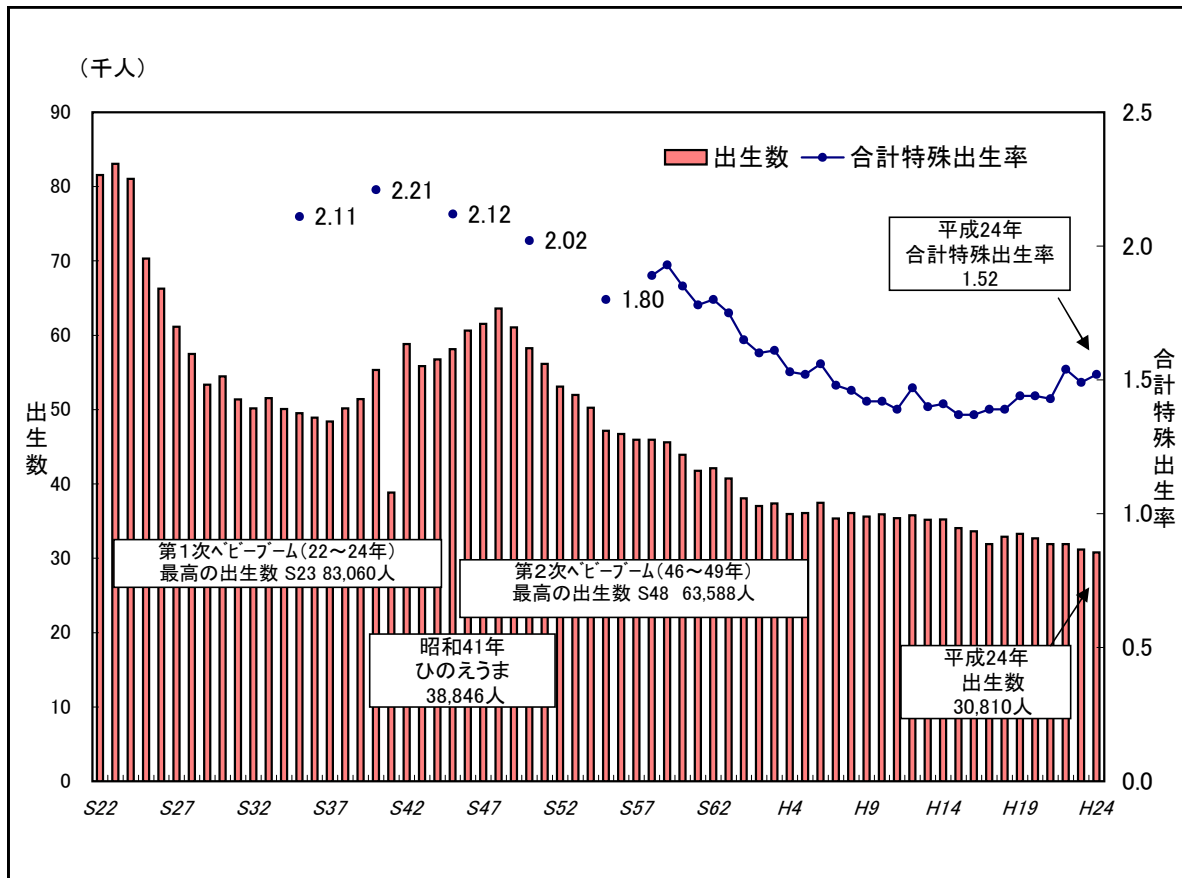
	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
	1.41	1.37	1.37	1.39	1.39	1.44	1.44	1.43	1.54	1.49	1.52
	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41

<参考>

厚生労働省が算出する都道府県別の合計特殊出生率は、国勢調査年とそれ以外の年で算出方法が異なる。非国勢調査年は外国人を含む年齢別の女性人口を分母として算出しているが、国勢調査年は国勢調査に基づく日本人のみを分母としている。これにより、国勢調査年は分母が小さくなることから、合計特殊出生率は高めとなる傾向がある。

『H22合計特殊出生率 確定値1.54（概数値1.48）』※概数値は平年と同じ分母で算出。

図2 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



2 死 亡

(1) 死亡数・死亡率

平成24年の死亡数は38,194人で、前年の37,303人より891人増加した。

死亡数は、昭和30年代以降は2万人前後で推移していたが、昭和50年代の終わりごろから徐々に増加し、平成5年には2万5千人を、平成17年は3万人を超えた。

平成24年の死亡率（人口千対）は10.4で、前年の10.1を上回った。

昭和22年に13.0であった死亡率は、その後次第に低下し、昭和54年には戦後最低の5.7となった。その後は、昭和60年代からほぼ一貫して上昇を続け、平成15年に8.0を、平成20年には9.0を超え、平成23年には10.0を超えた。

表5 死亡数及び死亡率(人口千対)の年次推移

	静岡県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和30年	19,741	7.4	693,523	7.8
35	19,935	7.2	706,599	7.6
40	19,966	6.9	700,438	7.1
45	20,302	6.5	712,962	6.9
50	19,788	6.0	702,275	6.3
55	20,550	6.0	722,801	6.2
60	21,415	6.0	752,283	6.3
平成元年	22,769	6.3	788,594	6.4
2	23,543	6.4	820,305	6.7
3	23,850	6.5	829,797	6.7
4	24,619	6.7	856,643	6.9
5	25,088	6.8	878,532	7.1
6	25,503	6.9	875,933	7.1
7	26,666	7.2	922,139	7.4
8	26,089	7.0	896,211	7.2
9	26,343	7.1	913,402	7.3
10	27,178	7.3	936,484	7.5
11	28,753	7.7	982,031	7.8
12	28,323	7.6	961,653	7.7
13	28,914	7.8	970,313	7.7
14	28,894	7.8	982,379	7.8
15	29,813	8.0	1,014,951	8.0
16	29,809	8.0	1,028,602	8.2
17	31,747	8.5	1,083,796	8.6
18	32,001	8.6	1,084,450	8.6
19	32,507	8.7	1,108,334	8.8
20	34,511	9.3	1,142,407	9.1
21	34,209	9.2	1,141,865	9.1
22	36,420	9.8	1,197,012	9.5
23	37,303	10.1	1,253,066	9.9
24	38,194	10.4	1,256,359	10.0

表6 年齢(5歳階級)別にみた、死亡数・死亡率(人口10万対)

	死 亡 数			死 亡 率		
	平成24年	平成23年	対前年増減	平成24年	平成23年	対前年増減
総数	38,194	37,303	891	1,022.6	1,009.8	12.8
0～4歳	84	98	△ 14	53.6	61.8	△ 8.2
5～9	12	17	△ 5	7.4	10.3	△ 2.9
10～14	17	10	7	9.7	5.7	4.0
15～19	32	48	△ 16	18.2	27.8	△ 9.6
20～24	83	86	△ 3	59.3	59.1	0.2
25～29	77	91	△ 14	41.5	47.5	△ 6.0
30～34	112	104	8	52.9	47.5	5.4
35～39	179	201	△ 22	68.7	74.6	△ 5.9
40～44	269	303	△ 34	101.7	115.8	△ 14.1
45～49	386	419	△ 33	166.3	186.2	△ 19.9
50～54	579	618	△ 39	258.5	274.7	△ 16.2
55～59	928	969	△ 41	392.1	391.5	0.6
60～64	1,954	2,022	△ 68	635.2	638.7	△ 3.5
65～69	2,313	2,391	△ 78	940.1	1,008.5	△ 68.4
70～74	3,414	3,354	60	1,530.2	1,545.5	△ 15.3
75～79	4,948	4,840	108	2,680.7	2,668.7	12.0
80～84	6,883	6,746	137	4,921.6	4,949.2	△ 27.6
85～89	7,295	6,804	491	8,515.0	8,438.9	76.1
90歳以上	8,629	8,182	447	18,724.1	18,593.8	130.3

(注) 総数には年齢不詳を含む。

(2) 死 因

平成24年の死亡数を死因別にみると、第1位は悪性新生物で10,269人、死亡率(人口10万対)278.8、第2位は心疾患で5,697人、死亡率154.7、第3位は脳血管疾患で4,258人、死亡率115.6となっており、この順位は平成11年以降同じである。

全死亡者に占める割合は、それぞれ26.9%、14.9%、11.1%であり死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

表7 主な死因別死亡数・死亡率(人口10万対)・死因順位

死 因	静 岡 県						全 国			
	平成24年			平成23年			平成24年		平成23年	
	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数に 占める割合 (%)	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数に 占める割合 (%)	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数	死亡率 (人口10万対)
全 死 因	38,194	1,037.0	100.0	37,303	1,009.8	100.0	1,256,359	997.5	1,253,066	993.1
悪性新生物(1)	10,269	278.8	26.9	(1) 10,235	277.1	27.4	(1) 360,963	286.6	(1) 357,305	283.2
心 疾 患(2)	5,697	154.7	14.9	(2) 5,730	155.1	15.4	(2) 198,836	157.9	(2) 194,926	154.5
脳血管疾患(3)	4,258	115.6	11.1	(3) 4,107	111.2	11.0	(4) 121,602	96.5	(4) 123,867	98.2
肺 炎(4)	3,189	86.6	8.3	(4) 3,112	84.2	8.3	(3) 123,925	98.4	(3) 124,749	98.9
老 衰(5)	2,828	76.8	7.4	(5) 2,609	70.6	7.0	(5) 60,719	48.2	(6) 52,242	41.4
不慮の事故(6)	1,321	35.9	3.5	(6) 1,302	35.2	3.5	(6) 41,031	32.6	(5) 59,416	47.1
腎 不 全(7)	801	21.7	2.1	(8) 788	21.3	2.1	(8) 25,107	19.9	(8) 24,526	19.4
自 殺(8)	751	20.4	2.0	(7) 832	22.5	2.2	(7) 26,433	21.0	(7) 28,896	22.9
大動脈瘤及び解離(9)	517	14.0	1.4	(9) 507	13.7	1.4	(11) 15,831	12.6	(11) 15,599	12.4
糖 尿 病(10)	508	13.8	1.3	(10) 498	13.5	1.3	(12) 14,486	11.5	(12) 14,664	11.6

(注) 死亡数欄の()内の数字は死因順位を示す。

表8 性別にみた死因順位別、死亡数・死亡率(人口10万対)

(平成24年)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
男	死 因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	不慮の事故
	死亡数	6,241	2,731	2,092	1,820	743
	死亡率	344.0	150.6	115.3	100.3	41.0
女	死 因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老 衰	肺 炎
	死亡数	4,028	2,966	2,166	2,115	1,369
	死亡率	215.5	158.7	115.9	113.2	73.2

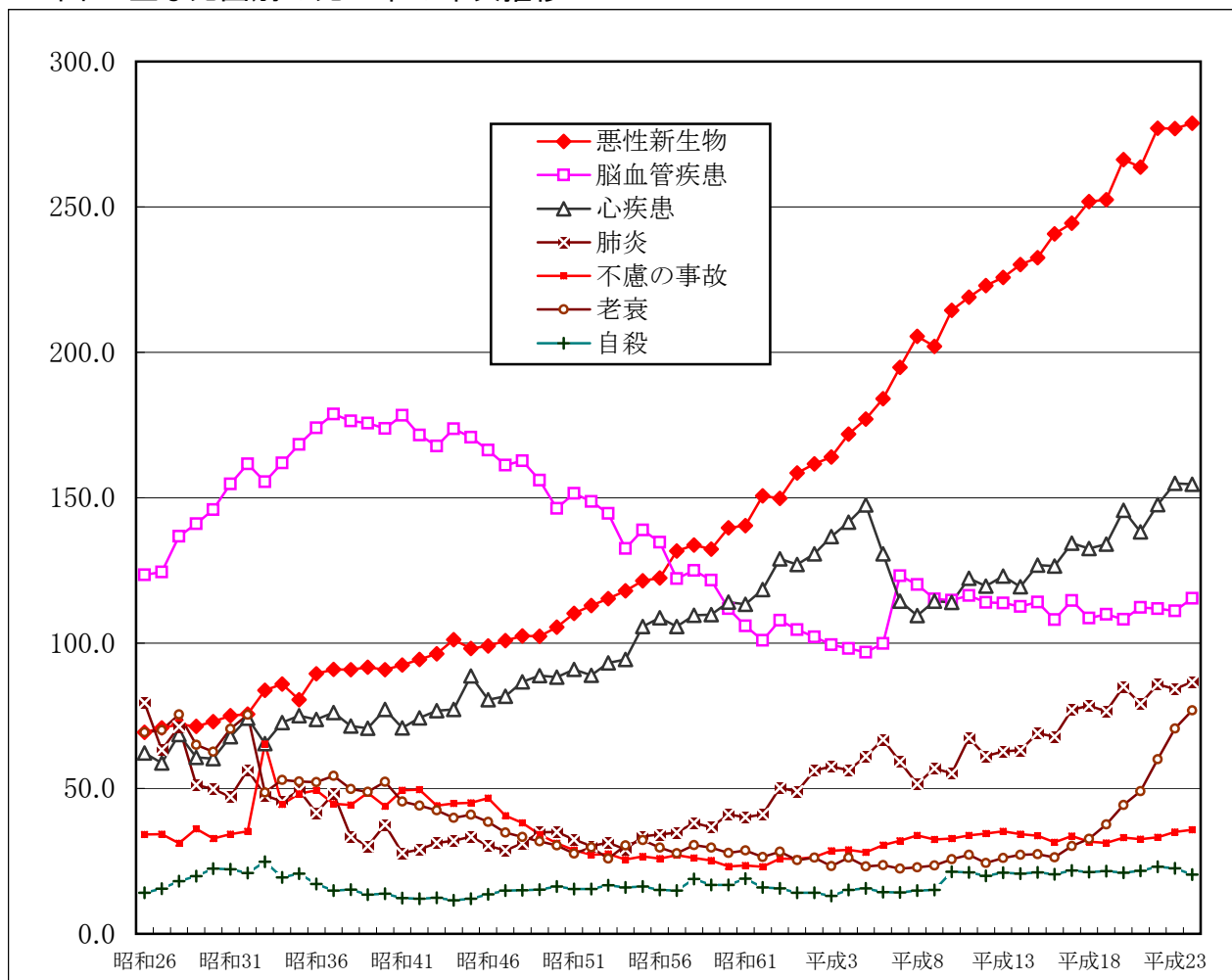
		第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
男	死 因	老 衰	自 殺	腎不全	慢性閉塞性肺疾患	大動脈瘤及び解離
	死亡数	713	526	406	391	285
	死亡率	39.3	29.0	22.4	21.6	15.7
女	死 因	不慮の事故	腎不全	糖尿病	大動脈瘤及び解離	自 殺
	死亡数	578	395	250	232	225
	死亡率	30.9	21.1	13.4	12.4	12.0

(注) 死亡率は人口10万対

死亡率の年次推移をみると、悪性新生物は、ほぼ一貫して上昇傾向にあり、昭和57年以降死因順位の第1位となっている。

3大死因の本県の死亡率の全国順位は、高い方から数えて悪性新生物が39位、心疾患が37位、脳血管疾患が17位となっている。

図2 主な死因別の死亡率の年次推移



(注) 「肺炎」は平成6年まで「肺炎及び気管支炎」である。

悪性新生物について死亡数を部位別にみると、男は「肺」が1,473人で最も多く、以下「胃」が908人、「大腸」が726人、「肝」が608人、「膵」が462人の順である。この順位は前年と変わっていない。

女は「大腸」が598人で最も多く、以下「肺」が522人、「胃」が481人、「膵」が411人、「乳房」が370人の順となっている。昨年は「大腸」が1番目(584人)、「胃」が2番目(469人)、「膵」が3番目(450人)、「肺」が4番目(442人)、「乳房」が5番目(375人)であった。

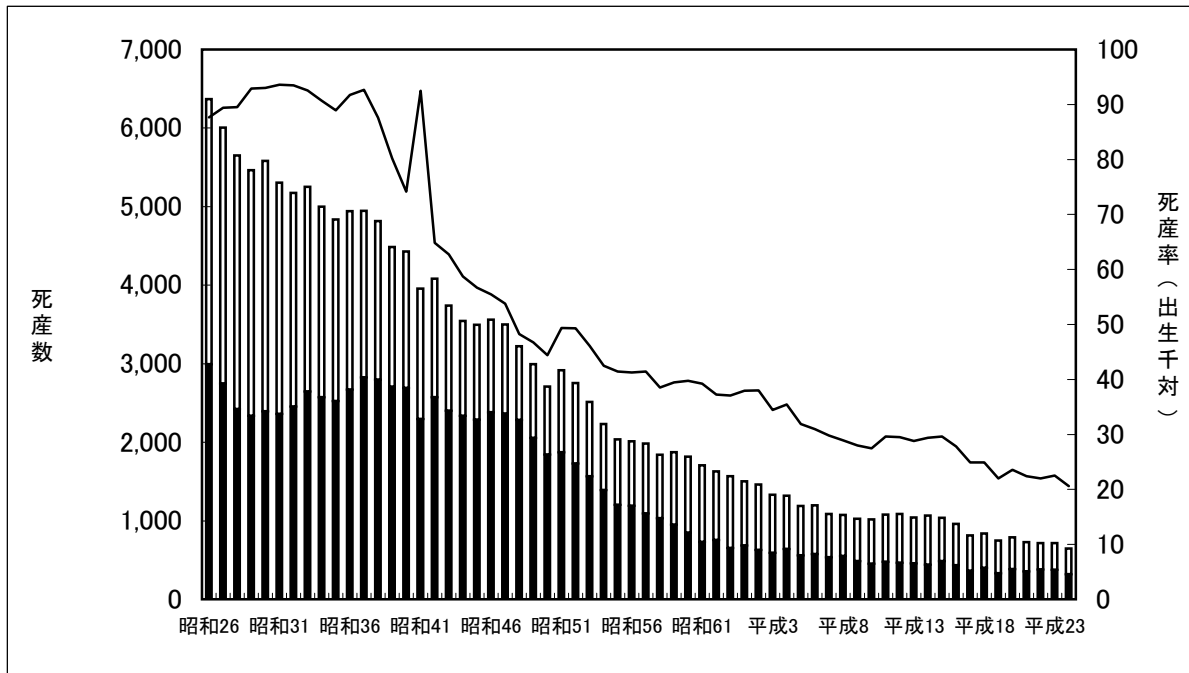
(注) 大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

3 死産

平成24年の死産（妊娠満12週以後の死児の出産）数は647胎で、前年の719胎より72胎減少し、死産率（出産（出産＋死産）千対）は20.6で前年の22.5を下回った。

死産率の年度推移をみると、昭和37年までは概ね90前後で推移していたが、昭和38年からは昭和41年のひのえうまの影響を除き、急激に低下し、50年には44.4となった。その後は、おおむね低下傾向となっている。

図3 死産数及び死産率の年次推移



4 婚姻・離婚

(1) 婚姻

平成24年の婚姻件数は19,323組で、前年の19,093組より230組増加し、婚姻率（人口千対）は5.2で、前年の5.2と同率だった。

婚姻件数は昭和40年代後半には、婚姻件数は3万組を超え、婚姻率も10.0前後を記録した。その後は、件数・率とも減少が続いたが、昭和63年以降は増加に転じ平成4年以降平成14年まで婚姻率は6.0以上であったが、平成15年以降6.0を下回っている。

平均初婚年齢は、夫30.7歳、妻28.8歳で、前年より上昇した。

表9 婚姻の年次推移

	婚姻			
	静岡県		全国	
	件数	率	件数	率
昭和45年	30,036	9.7	1,029,405	10.0
50	27,541	8.3	941,628	8.5
55	22,460	6.5	774,702	6.7
60	21,501	6.0	735,850	6.1
平成2年	20,700	5.7	722,138	5.9
4	22,000	6.0	754,441	6.1
5	23,144	6.3	792,658	6.4
6	22,724	6.1	782,738	6.3
7	22,991	6.2	791,888	6.4
8	23,117	6.2	795,080	6.4
9	22,513	6.1	775,651	6.2
10	23,134	6.2	784,595	6.3
11	22,429	6.0	762,028	6.1
12	23,550	6.3	798,138	6.4
13	24,019	6.5	799,999	6.4
14	22,635	6.1	757,331	6.0
15	21,817	5.9	740,191	5.9
16	21,304	5.7	720,417	5.7
17	21,056	5.7	714,265	5.7
18	21,663	5.8	730,971	5.8
19	21,150	5.7	719,822	5.7
20	21,193	5.7	726,106	5.8
21	20,716	5.6	707,734	5.6
22	20,323	5.5	700,214	5.5
23	19,093	5.2	661,895	5.2
24	19,323	5.2	668,869	5.3

(注) 婚姻率は人口千対

表10 平均初婚年齢の年次推移

	静岡県			全国		
	夫	妻	年齢差	夫	妻	年齢差
昭和45年	26.8	23.9	2.9	26.9	24.2	2.7
50	26.9	24.4	2.5	27.0	24.7	2.3
55	27.8	25.0	2.8	27.8	25.2	2.6
60	28.2	25.3	2.9	28.2	25.5	2.7
平成2年	28.4	25.7	2.7	28.4	25.9	2.5
5	28.5	26.0	2.5	28.4	26.1	2.3
10	28.7	26.6	2.1	28.6	26.7	1.9
15	29.4	27.4	2.0	29.4	27.6	1.8
16	29.6	27.6	2.0	29.6	27.8	1.8
17	29.8	27.8	2.0	29.8	28.0	1.8
18	29.9	27.9	2.0	30.0	28.2	1.8
19	30.0	28.1	1.9	30.1	28.3	1.8
20	30.0	28.1	1.9	30.2	28.5	1.7
21	30.2	28.2	2.0	30.4	28.6	1.8
22	30.4	28.5	1.9	30.5	28.8	1.7
23	30.5	28.6	1.9	30.7	29.0	1.7
24	30.7	28.8	1.9	30.8	29.2	1.6

(注) 各届出年に結婚生活に入ったもの

(2) 離 婚

平成24年の離婚件数は6,878組で、前年の6,804組より74組増加し、離婚率（人口千対）は1.87で、前年の1.84を上回った。

離婚件数は、昭和37年以降毎年増加したが、昭和58年の5,075組をピークに減少した後、平成元年以降は再度増加を続け、平成15年に8千組を超えた。平成16年以降徐々に減少し、平成21年に増加した後2年連続で減少したが、平成24年に再び上昇した。

表11 離婚の年次推移

	離 婚			
	静 岡 県		全 国	
	件 数	率	件 数	率
昭和45年	2,701	0.87	95,937	0.93
50	3,536	1.07	119,135	1.07
55	4,202	1.22	141,689	1.22
60	4,572	1.28	166,640	1.39
平成2年	4,432	1.21	157,608	1.28
5	5,292	1.44	188,297	1.52
6	5,426	1.47	195,106	1.57
7	5,723	1.55	199,016	1.60
8	5,795	1.56	206,955	1.66
9	6,298	1.70	222,635	1.78
10	6,780	1.82	243,183	1.94
11	6,975	1.87	250,529	2.00
12	7,380	1.99	264,246	2.10
13	7,967	2.14	285,911	2.27
14	7,985	2.14	289,836	2.30
15	8,087	2.17	283,854	2.25
16	7,688	2.06	270,804	2.15
17	7,474	2.01	261,917	2.08
18	7,281	1.96	257,475	2.04
19	7,208	1.94	254,832	2.02
20	6,959	1.87	251,136	1.99
21	7,352	1.98	253,353	2.01
22	7,241	1.96	251,378	1.99
23	6,804	1.84	235,719	1.87
24	6,878	1.87	235,406	1.87

(注) 離婚率は人口千対

III 参 考 资 料

1 死因簡単分類表

死因 簡単分類 コード	分 類 名	死因 簡単分類 コード	分 類 名
01000	感染症及び寄生虫症	09300	脳血管疾患
01100	腸管感染症	09301	くも膜下出血
01200	結核	09302	脳内出血
01201	呼吸器結核	09303	脳梗塞
01202	その他の結核	09304	その他の脳血管疾患
01300	敗血症	09400	大動脈瘤及び解離
01400	ウイルス肝炎	09500	その他の循環器系の疾患
01401	B型ウイルス肝炎	10000	呼吸器系の疾患
01402	C型ウイルス肝炎	10100	インフルエンザ
01403	その他のウイルス肝炎	10200	肺炎
01500	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]症	10300	急性気管支炎
01600	その他の感染症及び寄生虫症	10400	慢性閉塞性肺疾患
02000	新生物	10500	喘息
02100	悪性新生物	10600	その他の呼吸器系の疾患
02101	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	11000	消化器系の疾患
02102	食道の悪性新生物	11100	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍
02103	胃の悪性新生物	11200	ヘルニア及び腸閉塞
02104	結腸の悪性新生物	11300	肝疾患
02105	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	11301	肝硬変(アルコール性を除く)
02106	肝及び肝内胆管の悪性新生物	11302	その他の肝疾患
02107	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	11400	その他の消化器系の疾患
02108	膵の悪性新生物	12000	皮膚及び皮下組織の疾患
02109	喉頭の悪性新生物	13000	筋骨格系及び結合組織の疾患
02110	気管、気管支及び肺の悪性新生物	14000	腎尿路生殖器系の疾患
02111	皮膚の悪性新生物	14100	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患
02112	乳房の悪性新生物	14200	腎不全
02113	子宮の悪性新生物	14201	急性腎不全
02114	卵巣の悪性新生物	14202	慢性腎不全
02115	前立腺の悪性新生物	14203	詳細不明の腎不全
02116	膀胱の悪性新生物	14300	その他の腎尿路生殖器系の疾患
02117	中枢神経系の悪性新生物	15000	妊娠、分娩及び産後
02118	悪性リンパ腫	16000	周産期に発生した病態
02119	白血病	16100	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害
02120	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	16200	出産外傷
02121	その他の悪性新生物	16300	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害
02200	その他の新生物	16400	周産期に特異的な感染症
02201	中枢神経系のその他の新生物	16500	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害
02202	中枢神経系を除くその他の新生物	16600	その他の周産期に発生した病態
03000	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	17000	先天奇形、変形及び染色体異常
03100	貧血	17100	神経系の先天奇形
03200	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	17200	循環器系の先天奇形
04000	内分泌、栄養及び代謝疾患	17201	心臓の先天奇形
04100	糖尿病	17202	その他の循環器系の先天奇形
04200	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	17300	消化器系の先天奇形
05000	精神及び行動の障害	17400	その他の先天奇形及び変形
05100	血管性及び詳細不明の認知症	17500	染色体異常、他に分類されないもの
05200	その他の精神及び行動の障害	18000	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
06000	神経系の疾患	18100	老衰
06100	髄膜炎	18200	乳幼児突然死症候群
06200	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	18300	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
06300	パーキンソン病	20000	傷病及び死亡の外因
06400	アルツハイマー病	20100	不慮の事故
06500	その他の神経系の疾患	20101	交通事故
07000	眼及び付属器の疾患	20102	転倒・転落
08000	耳及び乳様突起の疾患	20103	不慮の溺死及び溺水
09000	循環器系の疾患	20104	不慮の窒息
09100	高血圧性疾患	20105	煙、火及び火災への曝露
09101	高血圧性心疾患及び心腎疾患	20106	有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露
09102	その他の高血圧性疾患	20107	その他の不慮の事故
09200	心疾患(高血圧性を除く)	20200	自殺
09201	慢性リウマチ性心疾患	20300	他殺
09202	急性心筋梗塞	20400	その他の外因
09203	その他の虚血性心疾患		
09204	慢性非リウマチ性心内膜疾患		
09205	心筋症		
09206	不整脈及び伝導障害		
09207	心不全		
09208	その他の心疾患		

2 率計算に用いた人口

静岡県計	3,683,000
男	1,814,000
女	1,869,000
賀茂圏域	71,000
熱海伊東圏域	109,104
駿東田方圏域	667,602
富士圏域	384,651
静岡圏域	712,330
志太榛原圏域	468,873
中東遠圏域	506,929
西部圏域	816,111
賀茂保健所	71,000
下田市	24,231
東伊豆町	13,540
河津町	7,767
南伊豆町	9,157
松崎町	7,284
西伊豆町	9,021
熱海保健所	109,104
熱海市	38,701
伊東市	70,403
東部保健所	558,471
沼津市	198,349
三島市	111,629
裾野市	54,056
伊豆市	33,008
伊豆の国市	48,989
函南町	38,384
清水町	32,385
長泉町	41,671
御殿場保健所	109,131
御殿場市	88,938
小山町	20,193

富士保健所	384,651
富士宮市	131,726
富士市	252,925
静岡市保健所	712,330
静岡市	712,330
葵区	254,421
駿河区	213,454
清水区	244,455
中部保健所	468,873
島田市	99,244
焼津市	141,720
藤枝市	142,879
牧之原市	47,542
吉田町	29,844
川根本町	7,644
西部保健所	526,001
磐田市	166,640
掛川市	115,432
袋井市	84,797
御前崎市	59,471
菊川市	33,834
森町	46,755
湖西市	19,072
浜松市保健所	797,039
浜松市	797,039
中区	236,639
東区	126,455
西区	112,879
南区	101,753
北区	94,224
浜北区	92,819
天竜区	32,270

全国計	125,957,000
男	61,328,000
女	64,630,000

- 注 1 全国計及び静岡県計は、「平成24年10月1日現在推計人口」(総務省統計局)
 2 圏域及び市区町は、「平成24年10月1日推計人口」(静岡県統計調査課)

3 2次保健医療圏・保健所構成市区町

(平成24年12月31日現在)

圏域名	保健所名	構成市区町				
賀 茂	賀 茂	下田市 西伊豆町	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町
熱海伊東	熱 海	熱海市	伊東市			
駿東田方	東 部	沼津市 函南町	三島市 清水町	裾野市 長泉町	伊豆市	伊豆の国市
	御 殿 場	御殿場市	小山町			
富 士	富 士	富士宮市	富士市			
静 岡	静 岡 市	葵区	駿河区	清水区		
志太榛原	中 部	島田市 川根本町	焼津市	藤枝市	牧之原市	吉田町
中 東 遠	西 部	磐田市 森町	掛川市	袋井市	御前崎市	菊川市
西 部		湖西市				
	浜 松 市	中区 浜北区	東区 天竜区	西区	南区	北区